



大島のおしんめいさま



小松のおしんめいさま

新しいものはやや大きく三〇センチくらい、男女両体の顔を刻んだ棒は八角で、これに「明治二十九年旧十月十五日、齋主社掌、行年二十二才」と書いてあるところをみると、誰れかの冥福を祈るために新につくられたものかとも思われる。新潟から移ってきた人が持っていたし、何か裏日本からでもはいってきたようにも思わせる。清水に関係するとして、北会津村に多い白山神社も、おしんめい信仰と無関係ではないようにみえるし、福島県の

めないが、大正の年とみえる。ふくさんとかいう婆さんが持ち歩いたというが両堂には明治末年まで歩いた婆さんがあり、その家に行っても肩をたたいてもらったことがあるという。そのしんめいと、小松のものはちがうようであるが、よくわからない。

しんめいさま信仰の詳細をここに述べることは容易でないが、石原の古いものは高さ二〇センチくらい、